

「第11回愛知県長良川河口堰最適運用検討委員会」に関する  
傍聴者の御意見と傍聴者の質問に対する回答など

氏名	御意見	質問に対する回答など
井上 祥一郎	<p>海食物連鎖とか生態系ピラミッドの基盤は一般的に植物プランクトンとされています。最近の研究成果は、植物プランクトンでも上位種にとって質の悪い餌、良い餌という見方がされています。</p> <p>良い餌はケイ藻類とされ、ケイ藻類にとってはケイ酸（シリカ・ケイ素ともほぼ同じ意味）が、必須なのが他の緑藻やラン藻と異なる点です。</p> <p>ケイ藻のレッドフィールド比は鉄：炭素：窒素：リン：ケイ素が0.001：106：16：1：15～50とされています。水中にこれに見合う量があれば良いというのはケイ素にとっては当てはまらないようです。</p> <p>貧栄養段階では、十分なケイ酸があったことから、かなりの濃度勾配がないと充分ではないと考えています。ケイ酸不足の可能性が仮説として出ています。</p> <p>ダムや河口堰で滞留することで、溶存態のケイ酸はケイ藻に取り込まれ、海への供給量は減少します。</p> <p>現在、水質分析にケイ酸は含まれておりません。かつてのケイ酸の供給源の湧水の減少もあるので、ケイ酸の挙動と河川構造物、流域の土地利用について、窒素・リンと同等、あるいはそれ以上にデータの蓄積が重要と考えます。環境省におられた原島省さんの論文を参考にしてみてください。</p>	